

中川選手 シンクロ飛び込み「銀」



石田学長にアジア大会での銀メダル獲得を報告する中川真依選手 = 学長室

アジア大会

総合的国際大会で本学初

北京五輪出場へ期待膨らむ

十二月に中東のドーハで開かれたアジア大会に出場した水泳飛び込みの中川真依選手(金沢学院大学経営情報学部一年)は、山下美沙子選手(北國銀行)と組んだ女子シンクロ高飛び込みで2位となりました。本学教職員、学生がオリンピックに次ぐ総合的国際大会で銀メダルを獲得したのは初めてです。残念ながら個人種目は5位でしたが、08年の北京オリンピック出場に向けて一層期待が膨らんでいます。

中川選手は、小松市立高校時代から全日本のトップクラスで活躍し、本学に進学後も、個人種目および山下選手と組んだシンクロで難度の高い技に磨きをかけてきました。十二月二十日、銀メダル獲得を石田寛人学長に報告した中川選手は、「六時間の時差はきつかった」とアジア大会を振り返り、五輪出場に向けては「一つひとつの過程を大切にしていきたい」と意欲を見せました。

マレーシアの高校生と交流

東高へ赤十字団体が来訪

赤十字団体「マレーシア赤新月社」の石川県訪問団が十二月二十日、金沢学院東高校を訪れ、一年生と交流しました。訪れたのは、男女高校生ら八人です。石田毅士郎校長の挨拶のあと、東高校の生徒代表が英語、マレー語、中国語などで歓迎の言葉を述べました。

スポーツコースの生徒がアトラクションとして柔道、剣道、弓道の模範演技を披露しました。剣道では、マレーシアの生徒が竹刀を持って面や胴を打つ体験をしました。

返礼パフォーマンスでは現地の音楽でダンスが披露され、東高校の生徒も踊りに加わりて友好を深めました。



剣道の模範演技に舞台の上から見入るマレーシアの生徒ら = 東高校体育館



蘇州日報社長ら本学を視察

北國新聞社の招きで金沢を訪れた中国の蘇州日報社の一行が十二月六日、金沢学院大学を視察に訪れました。

来訪したのは、劉文洪社長ら五人です。初めに宮本匡章学園長、石田寛人学長らと懇談しました。蘇州側から本学の概要や経営主体などについて質問があり、私大を運営する学校法人と国立大学法人の違いなども説明しました。

一行は6号館を見学し、日本画、陶芸、漆芸の実習室で、大樋長左衛門学部長、前史雄教授らから説明を受けました。

発行・広報室

美文も裁判員制度の講義

金沢学院大学美術文化学部の特別講義「裁判員制度をこぞ知るか」は十二月十三日、4号館講堂で開かれました。同制度を解説するドラマを見たあと、金沢地方検察庁の吉池浩嗣次席検事が、裁判員の選ばれ方などを補足説明しました。



電力中央研究所の西原崇主任研究員が、送電線の流力振動など、福岡工業大学の溝田武人教授が硬式野球やサッカーボールの飛び方と回転軸・回転数の関係などについて発表しました。溝田教授は、ナックルボールが横に揺れ、フォークボールやスライダールが鋭く落ちる原理を実験、データの解析で説明し、聴講者の関心を集めました。